

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

□巻頭言 / 第47回産業審議会報告 … P1 □プレス・ボディガラ処理の実態調査結果 … P2
 □SDGs時代の資源循環を考える … P3 □ブロック活動報告 … P4
 □宮城県組合報告 … P5 □鉄スクラップ最新情報 … P6 □行事予定・お知らせ … P7

vol.127

第47回産業構造審議会報告

01

第47回産業構造審議会（産業構造審議会産業技術環境文科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG、中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会）合同会議が9月10日（火）に大手町で開催されました。今回の審議会は、これまでの取組状況や報告を中心に行われました。

自動車リサイクル制度をめぐる各種取組状況については、特に使用済自動車由来の再生プラスチックを利用することで、リサイクル料金割引を行う「インセンティブ制度」検討状況の報告が行われました。

現状、品質面やコスト面、Deca-BDE（デカブロモジフェニルエーテル）規制問題など多くの課題があり、自動車向けの利用がなされていないことから、今後は実証事業を行い自動車向け利用の実現に向けて確認したい旨の説明がありました。

インセンティブ制度に対しては実現を要望する意見が出されました。

また、数多くの質疑の中で注目されたのが、今、大きな問題になっている「中国ショック（廃棄物輸入規制）」についてでした。日本鉄リサイクル工業会からもSR・ASRの処理が滞り、混乱している現状から対策が急務との意見がありました。

日本自動車リサイクル機構の酒井代表理事からも同様の意見と「処理費用の高騰により石垣島では逆有償という事態にまで発展している状況」事例の報告がありました。この件へは各委員の注目度も高く、SR・ASRの処理問題に対する具体的な提案として「合わせ産廃処理（一般廃棄物と産業廃棄物をあわせて処理をする）」の早期実施を呼びかけました。

また、災害時における被災車両のエアバッグ処理について、損傷が大きい車両においては通常の処理が困難なことから、災害時におけるエアバッグの処理方法の再検討を提案しました。

最後に、長きに渡り当審議会の座長を務められました早稲田大学名誉教授永田勝也氏が今回の審議会をもって退任されました。永田名誉教授は、将来の日本の自動車リサイクルに対する想いを語り、後進に道を託し席を後にされました。長い間ありがとうございました。

巻頭言

今回の記事では、会員様からのアンケートを元にASR受取制限問題を取り上げさせていただきました。記事作成にあたり、半数以上の会員企業様にご協力をいただいたことを御礼申し上げます。

今回のアンケートから、地域によっては受取制限が発生していないこと、ダスト引きのパーセンテージに地域差があることなどが分かりました。今後とも会員様の現状の問題に密着した記事の配信を心がけて参ります。

ご協力のほど、よろしくお願いし致します。

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 〒105-0004
 東京都港区新橋3丁目2番2号
 TEL: 03-3519-5181
 FAX: 03-3597-5171
 MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
 HP: http://www.elv.or.jp/

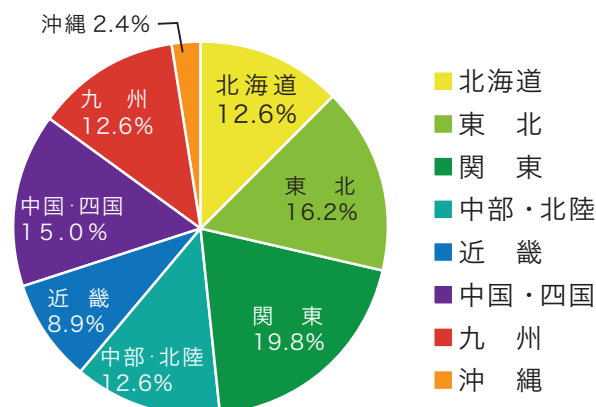
「中国ショック」の波紋が広がる中、我々の業界への影響を心配する声があがっています。このため広報部会では独自のアンケート調査を実施。業界内での実態をまとめました。今後、調査結果に基づき関係機関と情報共有を図りながら、改善に向けた取り組みを掲載してまいります。

アンケート回収率（地域別アンケート回収比率）

【発送数：492 社、回答数：252 社（回答不明：5 社） 回答率：50.2%】

全国地域ブロック単位の回答状況

今回のアンケートに対し、半数以上の会員様から迅速な回答を頂きました。
回答率の高さからこの問題に対する強い関心度を実感しています。特に回答率の高い関東地域では受取拒否の件数も8件発生しており、今後も地域間での情報交換が重要と考えます。

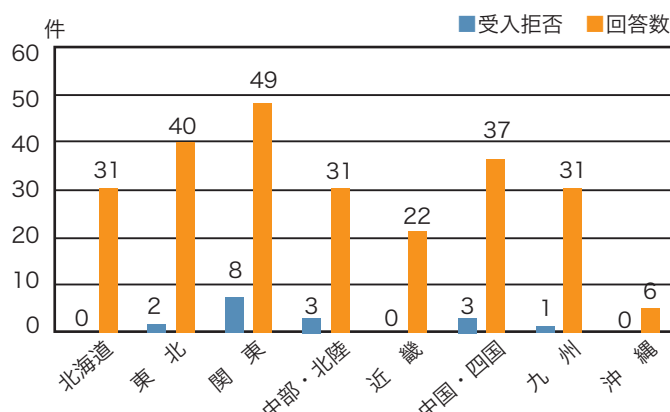


受取拒否の発生件数

受取拒否に関しては全国で17件発生。
この件数は全体の6.9%。

内訳は、東北2件、関東8件、中部・北陸3件、中国・四国3件、九州1件、北海道、近畿、沖縄は、発生していない。

■受取拒否との回答以外に、「車両制限・数量制限がある」「自社渡しながら運搬トラックが回ってこない」などのコメント回答：3社



ダスト引きの割合構成

ダスト引き率ごとの構成比率は以下の通り

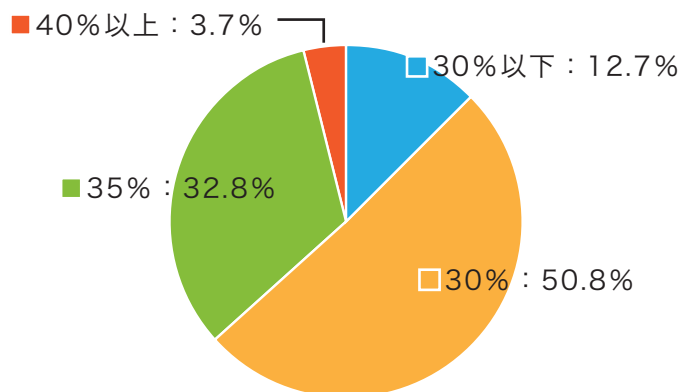
【30%以下：12.7%】【30%：50.8%】

【35%：32.8%】【40%以上：3.7%】

■ダスト引きの割合が上昇した。

【56 社】全体の 23.6%

■上記以外の理由で「プレスの値段を下げられた」「運賃が上がった」「別途請求があった」等の回答は 全体の 32 社



その他会員からの声

■受入に関する意見回答：「荷受拒否は無いが、廃プラの問題で処理できない」「受入は難しくなっている」「いつ受入拒否にあうか不安である」

■その他意見回答：「モーター、ABS、ラジエーター（アルミ）、ヒーター、エバポ（アルミ）等の値が提示されなくなった」「売り先がない」

NACS が自動車リサイクル啓発冊子を作成

ー 当機構もリサイクル部品に関し、ヒアリングに協力 ー

公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS）は、自動車リサイクルに関する啓発冊子『商品の一生を知ろう もっと自動車リサイクル～限りある資源を大切に使うために～』

(http://www.nacs.or.jp/kankyo/study/auto/leaflet_1903.html) を作成した。

資源循環の視点から、自動車リサイクル制度について学び、より一層、限りある資源を大切に使うために消費者は何かできるのかを考える冊子となっています。



【目次】

1. 使われなくなった自動車はどうなるの？
2. リサイクル部品について知ろう
3. 移動や輸送のサービスを利用するときに考えてみよう、調べてみよう
4. 自動車を購入するときに調べてみよう、確認しよう
5. これからの自動車とリサイクル、そして私たちの暮らし

この冊子では、主に資源循環に着目し、限りある資源を大切に使うために消費者ができることを一緒に考えたいと思います。

NACS シンポジウム「もっと自動車リサイクル」に、酒井代表理事が登壇

『もっと自動車リサイクル』発行を記念して、自動車リサイクル制度に関わる多様なステークホルダーが、それぞれの状況や立場でできることを話し合うシンポジウムを NACS が主催。

日時	2019年10月11日（金）15:00～17:30
会場	日本自動車会館 貸会議室（東京都港区芝大門1丁目1-30）
参加費	無料

【プログラム概要】

■「SDGs&パリ協定が社会に求める変革とは」ー 環境省環境再生資源循環局

■パネルディスカッション

「自動車リサイクルを「もっと」進めていくためのパートナーシップにむけて」

コーディネーター：赤穂啓子氏（日刊工業新聞社）

登壇者：（一社）全国消費者団体連絡会 （一社）日本自動車リサイクル機構
 （一社）日本自動車整備振興会連合会 （一社）日本損害保険協会
 グリーン購入ネットワーク （一社）日本自動車工業会
 （一社）日本自動車販売協会連合会東京支部、（公社）NACS 環境委員会

■「新時代自動車戦略と SDGs」ー 経済産業省製造産業局自動車課

詳細及び申込先：http://www.nacs.or.jp/kankyo/study/auto/simpo_191011.html

お問合せ：（公社）日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 環境委員会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-17-14 全国婦人会館 2F e-mail: nacs-ecology@nacs.or.jp



地域ブロック長会議

9月18日（水）日本自動車リサイクル機構の会議室にて、「第2回地域ブロック長会議」を開催しました。当日は、全国の地域ブロック長、常任役員ら11名が参加しました。

今回の会議も「ブロック、支部活動の活性化と会員増強並びに空白県の解消」を主題として行われ、①産構審・中環審 第47回合同会議の報告、②自動車リサイクル設計事例集の製作取組み、③自動車リサイクル



高度化財団の受託事業（中間報告）、④自動車リサイクル士認定講習会の募集状況（東京会場、盛岡会場）、⑤ガラ処理実態調査のアンケート結果報告などの本部活動報告、続いて日本自動車リサイクル部品協議会との合流に関する経過報告が行われました。

その後、今回の主題に基づき各地域ブロック活動内容及び計画について各地域ブロック長より説明が行われ、各ブロックが抱える課題を参加者全員で共有し解決策など活発な意見交換がなされました。また、支部設立の進捗状況報告（9月18日現在21支部）や各地域での設立向けの課題を共有しながら、各地域ブロック長が連携し、全ての都道府県支部設立に向け情報共有とフォローを行うことが確認されました。次回は12月10日に開催予定です。

第2回 沖縄ブロック会議

9月1日（日）、沖縄市産業交流センターにて「第2回 沖縄ブロック会議」が開催され、会員15社、33名が参加しました。

当日の議題は、松田ブロック長より①2019年度社員総会の報告、②2019年度ブロック活動計画の説明。今年度の主な活動として、新規会員の加入促進・会員間の情報共有や連携強化を掲げられ、活発な意見交換が行われました。



また、新規会員の加入促進、情報共有の取り組みとして同日に日本自動車リサイクル研究所による「低圧電気取扱特別教育」セミナーが併せて開催されました。

受講者は、会員・会員以外及びうるま市消防本部（隊員5名）、オブザーバーとして沖縄県（1名）など総勢88名でのセミナー開催となりました。

適正処理講習会



8月2日（金）仙台市にて「使用済自動車適正処理講習会」を開催、行政・関係団体・組合員・非組合員、総勢29名が参加しました。

はじめに、東北地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 課長補佐 佐藤卓也様のご挨拶を賜りました。続いて平地理事長より、組合の活動として、①「自動車リサイクルのちょっとした工夫、適正処理のための優れた取り込み事例」②組合員を訪問し「エアバッグ類の適正処理」の現地確認と現場での悩みや前年度の改善など、現場と経営者（組合員）の改善点などを共有する場として活動している事例紹介を行いました。

講演は3部形式で行われ、第1部は「宮城県における自動車リサイクル法の適正な運用に向けて」と題して、宮城県環境生活部 循環型社会推進課 技術主幹（リサイクル推進班長）遠藤美砂子様のご講演。適正な運用に向けての自動車リサイクル全般にわたるお話から、特に「ASR再資源化率は平成23年度以降90%以上（全国）となっているが、廃プラスチック類の処理が困難になってきている。今後再生樹脂の活用などが必要になってくる」との内容で、再生樹脂の品質確保のためには、解体事業者として適正処理が重要と話されました。

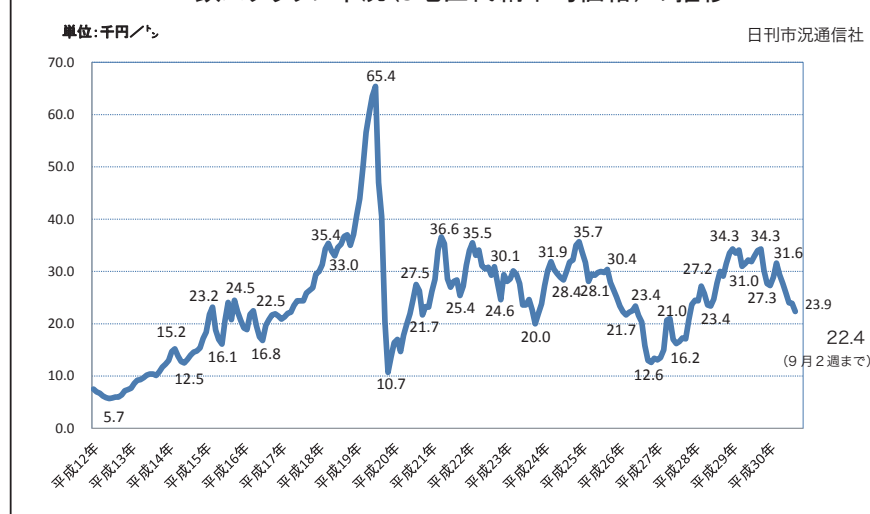
第2部は、「自動車リサイクルの全般と近況活動について」と題して、公益財団法人自動車リサイクル促進センター 事務統括部長 主幹 小久保重規様より講演をいただき、資金管理・運営のチェック体制・指定再資源化機関・情報管理・広報など、多岐にわたる内容をお話いただきました。最後に、「この先10年以内にクルマを所有しますか」、「この先10年間に運転免許を取得しますか」、「クルマに期待する機能」など、10年後の自動車に関する将来像を考え、自動車リサイクル促進センターの活動を知る良い機会になりました。

第3部は、「エアバッグ類 / フロン類適正処理における最近の課題・お願い事項」と題して、一般社団法人自動車再資源化協力機構 業務部 渉外グループ 鍋谷佳成様より適正処理のための事例を交え、また、近年の自動車の動向について講演をいただきました。

このような取り組みを継続的に実施することにより、参加いただいた組合員等の適正処理への認識向上・共有と組合活動の活性化につながると実感しました。

9月第3週(17日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



9月17日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	23,000～24,000	続落
	南関東	23,000～24,000	続落
名古屋		23,000～24,000	続落
関西	大阪	23,500～24,000	続落
	姫路	22,500～23,500	続落

関西テnder、H2をFAS23,270円で落札 地区買値を下回る結果に

関西鉄源連合会(会長＝黒川友二・扶和メタル会長)は9月17日、第86回共同輸出入札を行い、日鉄物産がH2をFAS1ト当たり23,270円で落札した。積み期は2019年9月20日～10月31日まで。応札件数は7社7件。1社辞退。23,000円以上の応札は落札分を合わせて4件あった。

9月3日実施の前回に比べて1,840円安、11日実施の関東テnder平均に比べて1,579円安の結果となった。

今月に入って、大阪地区内では3度の電炉値下げが一巡となり、H2の炉前実勢価格が23,500～24,000円へ後退しつつも、それまでの旺盛な湾岸向け流出に加え、目先に3連休が控えており、H2以下のヘビー類に限っては余剰感が台頭していない。

一方、関東湾岸や東京製鉄・宇都宮工場が他地区以上に下げ足を早め、アジアミルもこれに合わせて商談レベルを引き下げている。それでも、世界最大のトルコ向け輸出指標価格と比べて、アジア向け商談は割高圏で推移し、値下げの圧力を受けている状態に変わりはない。このため、「この状況下で地区炉前実勢価格が輸出FAS価格を上回る必要性はなく、内外ともに一段安へ向かっていくのでは」(商社)と警戒観は根強いまだ。

【関東地区】需給緩く東日本全域で連日の値下がり

9月14日から17日にかけて、東日本全域で電炉各社の鉄スクラップ購入価格の値下げ改定が広がり、東日本相場は500円どころ続落した。電炉鋼生産が減産基調となっていることに加え、台風被害や設備故障で一部電炉が荷止対応を実施しており、東日本全域で鉄スクラップ需給が緩和している。

9月17日時点の関東市場のH2炉前実勢価格は23,000～24,000円中心。H2浜値は22,500～23,000円中心に下落している。

【東海地区】9月内で3回目のメーカー購入価格引き下げが一巡

名古屋地区の電炉メーカーは、9月11日から12日にかけて9月内で3回目の購入価格の引き下げを一巡させている。東京製鉄は今月に入り9月第2週末までに、拠点によって2週連続5回の値下げを実施。地区市況へ影響する同社の田原工場は3回(4日、6日、11日)の値下げ改定で、特級(陸上・海上とも)は24,000円に、新断(同)は25,500円に続落。9月17日時点のH2炉前実勢価格は23,000～24,000円中心に下押した。

【関西地区】需給やや改善も方向性に乏しい展開

関西地区は先安ムードが浸透している。地区内では需要の減退がつづき、輸出市場にも下落圧力が残るため、基調が弱いまま9月後半を迎えている。東京製鉄・岡山工場が14日から500円の値下げを実施し、特級は22,000円へ下落。これを受け、大阪地区の全8社、姫路の全4社が一律500円、足並みを揃え値下げした。9月17日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が23,500～24,000円中心、姫路地区が22,500～23,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、9月17日午後時点のもの)

行事予定

October

ー 10月の主な行事予定ー

■ 10月3日(木) 4日(金)

東北、中国・四国合同ブロック会議
自動車リサイクル士認定講習会（東京会場）

■ 10月9日(水)

関東ブロック会議

■ 10月11日(金)

「もっと自動車リサイクル」シンポジウム

■ 10月12日(土)

第7回 広報部会

■ 10月17日(水)

第5回 常任役員会

■ 10月29日(火)～31日(木)

第12回 アジア自動車環境フォーラム
(AAEF)

お知らせ

冠水車両のエアバッグ類処理に関する注意とお願い

自動車再資源化協力機構（以下、自再協）より、冠水車両のエアバッグ類処理に関する注意とお願いがありました。台風や豪雨等により冠水した車両を車上作動処理した際、インフレーター等が破裂したり、通電後しばらく経ってから作動するなど、異常展開することが報告されています。

作業者の安全確保や設備の損傷防止の観点から、以下に該当する車両は必ず取外回収を行ってください。

■ 車室内に泥や砂等が残存していて明らかに冠水が認められる車両

■ 車内外が洗浄等をされ、冠水の痕跡が不明な車両

本件の詳細については、以下のリンク先をご参照ください。

↓↓↓ 要確認 ↓↓↓

冠水車両のエアバッグ類処理に関する注意とお願い（自再協 HP）

http://www.jarp.org/pdfs/information/20190911_ab_information.pdf

編集後記

「中国ショック」が我が業界を脅かしています。中国ショックとは世界中の資源ゴミ、プラスチックゴミを中国政府が輸入禁止にしたことで、その行き場がなくなり、処理が滞ってしまったという現象です。この中国ショックで日本中の処理業者が混乱し悲鳴を上げています。

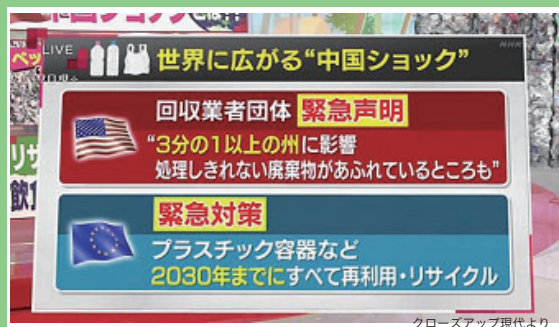
では、果たしてどれほどの影響がでてきているのか？

その実態を探るべく、我が広報部会では独自のアンケート調査を実施しました。定量的な分析をして実態を把握しようとする試みです。

アンケートを実施して驚いたのは、回答の早さと回答率の高さでした。それだけ関心度が高い課題といえます。結果は、今号の記事を参照してください。ただし、今回の結果は時間の経過と共に変わる可能性大で、あくまで8月時点での結果です。

9月10日に行われた審議会でも中国ショックの話題に触れられましたが、業界サイドと行政の認識に若干の温度差があるように感じたのは私だけでしょうか。SR、ASR問題が逼迫している状況にあることをもっと広く知らしめるべきだと思います。

（広報部会 部会長 永田 則男）



クローズアップ現代より